

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	特定非営利活動法人 劇場創造ネットワーク
公演団体名	特定非営利活動法人 劇場創造ネットワーク

内容
<p>『ピン・ポン』の出演者、久保恒雄(俳優)、光田圭亮(俳優)、公門美佳(ダンサー)らと一緒に演劇、ダンスの表現方法を用いたワークショップを行います。子どもたちの想像力とコミュニケーション力を養うとともに、作品のイメージを共有することで、より豊かな本公演の鑑賞につなげていきます。</p> <ul style="list-style-type: none">・最初に講師の自己紹介を兼ねた作品のデモンストレーションを行います。・ストレッチで身体をほぐし、パントマイムやダンスを行って作品の世界にふれてもらいます。・チームに分かれてお芝居作りチャレンジしてもらいます。本作品は台詞のない演劇なので、子どもたちにも声を出さない表現を体験してもらいたいと思います。 <p>※1回につき45分を予定。基本は学級毎に行います。 ※出演者とスタッフは全員マスクを着け、大声を発しないようマイクを使用します。 ※先生方にもご協力をいただき、講師陣と子どもたち、子どもたち同士のフィジカルディスタンスには充分注意をして行います。</p>

タイムスケジュール（標準）
8:30～9:30 準備、打ち合わせ 9:30～11:30 ワorkshop(途中休憩あり) 片付け後、会場下見、撤収
※学校、会場の都合により一部変更する場合があります。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
5～6名 (俳優2名、ダンサー1名、舞台監督1名、制作1～2名)

学校における事前指導
特にありません。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	特定非営利活動法人 劇場創造ネットワーク
公演団体名	特定非営利活動法人 劇場創造ネットワーク

演目	
『ピン・ポン』	
構成・演出	佐藤 信
美術・演出	tupera tupera(ツペラ ツペラ/亀山達矢、中川敦子)
振付・演出	竹屋 啓子
音楽	磯田 収(作曲・演奏)
照明プラン	横原 由祐
音響プラン	島 猛
衣裳	STORE

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
合計13名 (出演者4名、スタッフ9名)

タイムスケジュール (標準)
8:00～12:00 設営
12:00～13:00 リハーサル・練習
13:30～14:30 公演
15:00～17:30 撤収

※基本スケジュールです。会場の都合により変更する場合があります。

実施校への協力依頼人員
<ul style="list-style-type: none">・舞台上や舞台袖にあるもの(ピアノ、演台、吊り看板、体操マット等)などを片付けて下さい。また、終了後は原状復帰にご協力ください。・下見の際に、配電盤を開けさせてください。体育館の設備について詳しい方とお話をさせて下さい。・より良い鑑賞条件を創るために、学校の備品を使って客席の設営を工夫したいと思います。下見の際に客席設営の打ち合わせをさせてください。・客席設営の際には先生にもお立合いいただき、席の間隔や換気状況の確認をお願いいたします。・終了後の消毒作業にご協力をいただく場合があります。ご相談させてください。

演目解説

【あらすじ】

ある日、女の子のピーポーさんがひとり原っぱで寝そべっていると、どこからかピンポン玉がたくさん転がってきます。ついていくとピンポン玉が生きているふしぎな世界に入ってしまった。そこで恥ずかしがり屋の男の子ピンと、元気いっぱいの女の子ポンに出会います。ピーポーさんは、ピンとポンと遊んだり、旅をしたり、時には大変な道を乗り越えながら、一緒に成長していきます。いっぱい遊んで眠ってしまったピーポーさんが目を覚ますと、そこはいつもの散歩道。でもピーポーさんはもうさみしくありません。心の中にはいつでもかけがえのない友達がいるからです。

【見どころ】

楽器の生演奏とダンス、たくさんのカラフルなピンポン玉がとび出して、物語が賑やかに伝わります。日常の身の回りにあるものを使い、セリフがなくてもまるでピンポン玉が生きているように見える、オブジェクト・シアターの手法で児童の想像力をかきたてます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

<参加方法>

・作品全体が子どもたちと一緒に作りあげていくような演出で、舞台と客席が一体となって物語を進めていきます。劇中歌の中にゲーム(コール&レスポンス)を挟み、全児童に手拍子で参加してもらいます。

<工夫>

・上演中でも面白い場面に声を出して笑ったり、舞台に向かって声掛け等を行えるよう、児童が自由な感覚で舞台にふれられる雰囲気をつくれます。
・舞台に向かって学年ごとに背の順で縦に並ぶのではなく、舞台から平行に低学年から高学年への順に並んでもらいます。さらに学年ごとにセンター部分から外側に向かって背が高くなるように着席してもらい、客席をすり鉢状にすることで子供たちが舞台を見やすい状態にします。

児童生徒とのふれあい

・事前に劇中歌の CD を送り、給食の時間などに流してもらいます。劇中歌を聴いてもらうことで、作品に親しみを持ってもらいます。
・本番終演後に感想や質疑応答の時間を取ることも可能です。
・公演後に送ってもらう感想文のなかには質問も書かれているので、返事を書いて送ります。